

教科	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取組）	成果(○)と課題(△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に声に出して読む児童が多い。 ・伝えたいことを順序立てて話したり、言葉遣いに気を付けて話したりすることに課題がある。 ・一斉指導した後に、同じことを質問したり、勝手に発言したりする児童が数名いる。 ・想像を広げて読み、物語の登場人物の気持ちや言葉を考えることが苦手な児童がいる。 ・助詞の使い方や拗長音などの表記の習熟が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気よく読むだけでなく、抑揚をつけたり間を空けたりする工夫もできるようにする。 ・話し方、聴き方のルールを繰り返し確認し、意識を促す。日直のスピーチや授業中に、皆に向かって話したり、質問したりする場を設ける。 ・見通しをもって学習できるように、黒板に順序を示す。 ・絵や写真、実物を見せたり、動作化を取り入れたりして、イメージを膨らませやすくする。 ・けやきタイムや家庭学習で繰り返し取り組ませ、習熟を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○気持ちを込めて物語を音読したり、リズムよく詩を音読したりできるようになってきた。 ○黒板に順序を示すことによって、見通しをもって学習することができた。 ○実物を見たり、動作化したりすることで、イメージを膨らませて読むことができた。 △最後まで話を聞くことができず、思ったことをすぐに話してしまう児童が数名いる。相手の話に関心をもって聴いたり、相手の発言を受けて話をつないだりするよう指導する。 △助詞の使い方や拗音、拗長音の使い方は、習熟に個人差があるので、繰り返し指導していく。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・加法や減法計算の確実な理解が不十分で、指を使って求めている児童が数名いる。 ・計算はできるが、問題文を読み、場面を考えて式に表すことが苦手な児童がいる。 ・自分の考えを広げたり、深めたりすることが十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・けやきタイムや家庭学習で繰り返し取り組ませ、基礎基本の定着を図る。 ・具体物や半具体物を使った操作活動を多く取り入れ、加法や減法の意味理解や計算方法の理解につなげる。 ・自分で考える時間の後、自分の考えと比べて「同じ考え」「違う考え」など聴く視点を意識できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体物や半具体物を使って学習することで、加法や減法の意味理解につながった。 ○ICT機器を活用することで、問題場面の理解が深まった。 △計算はできるが、文章題になると式に表すのが苦手な児童がいる。また、答えの単位の書き方が分からなくなってしまう児童が何人かいるので、繰り返し文章題の練習をしていく。 △自分の考えを伝えることはできるが、考えを広げたり、深めたりするまでは至っていないので、考えが深まるような場をつくる。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・どの単元にも興味をもって取り組む児童が多い。 ・人との関わりを通して交流することができていない。 ・季節の変化の中で、諸感覚を使って感じたり、物事を比較したりしながらの気付きに個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が意欲的に取り組めるよう学習活動を工夫する。 ・友達や他学年、教職員、地域の方と関わり合う活動が難しいので、手紙を書くなど、できることを工夫して取り組む。 ・諸感覚を働かせた学習をするために、活動の前にねらいを確認し、目的意識をもたせる。友達の良い気付きを紹介したり、教師が価値付けたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○どの単元にも、興味をもって意欲的に取り組む児童が多かった。 ○活動の前にねらいを確認することで、目的意識をもって活動に取り組むことができた。 △2年生と交流したり、地域の方と交流したりすることができなかったため、関わりを通じた気付きが広がらなかった。コロナが落ち着いたら、交流活動を行っていきたい。 △活動後、「楽しかった」で終わり、体験を気付きや学びに広げていくことが課題である。体験した後に振り返りカードを活用し、よい気付きを

			紹介し共有していく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> • きれいな声で歌ったりリズムに乗って手遊びをしたり、楽しく活動をしている。 • ひらがなを読むスピードが遅かったり、器楽では、指がうまく動かせなかったりする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 旋律に合わせて言葉がついていけない児童のために、デジタル教科書を用いてテンポを遅くして練習をしたり、拡大文字のプリントを用意したり、教材を工夫する。 • 小物打楽器の学習では、映像を通して楽器の持ち方や音の出し方を何度も見せたり、きれいな音の出し方を自分なりに考えさせたり、いろいろな演奏の仕方を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○デジタル教科書、拡大文字のプリントを用意することから、言葉や旋律を指でなぞりながら全児童が音読したり歌ったりすることができた。 ○いろいろな小物打楽器の演奏方法を映像で見せることにより、持ち方や音の出し方、いろいろな音色を視覚的に捉えることができた。 △音を工夫することについて、イメージを音に表すことができない児童がいるため、例示を示しながらイメージを捉えさせるようにする。
図画 工作	<ul style="list-style-type: none"> • つくる方法や順番がわからない。 • 自分の活動に自信がもてない。 • 身近な自然や人工物を基に思い付いてつくる体験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 作例や見本を示し、活動の見通しをもち、自分のイメージを広げる。 • 自分のイメージをもつための十分な時間を保障する。 • 体全体をつかいながら材料とかわる題材を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作例や見本を示すことで、活動の見通しをもち、自分のイメージを広げることができた。 △十分な時間を保障するだけでなく教師の言葉かけや友達の活動を鑑賞することが必要である。 ○造形遊びの授業で主体的に石や葉などの材料とかわる姿が見られた。
体育	<ul style="list-style-type: none"> • どの活動にも興味をもって意欲的に取り組む児童が多い。 • 素早く整列したり、きまりを守って安全に活動したり、集団に合わせて行動しようとする意識が低い児童がいる。 • 自分の体をうまく操作できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 本時の学習に見通しをもって取り組めるようにする。 • 活動の前にきまりを確認し、どの学習においてもきまりを守って楽しく活動できるようにする。 • 様々な動きを体験させ、スモールステップで、できる運動を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな運動遊びに興味をもって取り組む児童が多かった。 ○体づくり運動のドリル教材などを活用し、スモールステップで段階をおって練習することで、様々な動きに挑戦し意欲的に取り組んでいた。 △手足の協調運動や、他の人の動きを真似する運動が苦手な児童が多い。これからも、様々な動きを体験させる必要がある。